

新たに入会された皆さん
正会員、団体会員

- ・門隆志
- ・特活(愛)しゃぼーと

新たに入会された皆さん
賛助会員

- ・溝本直人

寄付をいただいた皆さん

- ・宝塚の杜芸術倶楽部
- ・中山修
- ・石橋さなえ
- ・濱本佳子
- ・匿名希望3名

(順不同、敬称略 期間:2019年6月16日~2019年9月20日まで)



ご支援ありがとうございました。

(認定)宝塚NPOセンター会員募集・継続のお願い

宝塚NPOセンターは、「市民が市民を支える社会」を作るために、市民活動の支援をしています。人がつながり仲間になる、仲間がつながり地域になる、地域がつながり社会になる、その全ての場面を支えるセンターでありたいと考えています。私たちの活動を、会員として一緒に支えて下さいますようお願いいたします。

※認定NPO法人への寄付は税制面で優遇されます。

会費

個人正会員	団体会員 (NPO 法人他)	法人正会員	賛助会員
	10,000 円	30,000 円	3,000 円

振込先

	銀行振込	郵便振替
銀行名	三菱UFJ	
支店	宝塚支店	
口座番号	普通預金 3629422	00930-8-77117
カナ	トクテイヒエイリ タカラヅカエヌピーオーセンター	タカラヅカエヌピーオーセンター
口座名義	(特)宝塚NPOセンター	宝塚NPOセンター

伊丹市立市民まちづくりプラザ 業務のご案内

伊丹市立市民まちづくりプラザは建物の改修工事のため、2019年6月末で休館となりました。ご利用いただいた皆さま、ありがとうございました。リニューアルオープンは2020年4月の予定です。

休館期間中の業務は宝塚NPOセンターが受託し、講座開催、市民活動のご相談を承るほか、Facebook等での情報発信を行っています。ぜひwebページやFacebookで最新情報をご覧ください。伊丹で活動される皆さまの取材や広報のご依頼もお待ちしています!



(認定)宝塚NPOセンター

〒665-0845
兵庫県宝塚市栄町2-1-1
ソリオ1-3F
TEL: 0797-85-7766 FAX: 0797-85-7799
E-mail: zukanpo@hnpo.net
URL: http://hnpo.net/
駐車場: ソリオ1...30分 200円

発行人: 中山光子

宝塚NPOセンターニュース

TAKARAZUKA
NPO CENTER
NEWS

市民の手で市民活動を支える

100 おかげさまで100号を迎えることができました
これからもよろしくお願いたします

2019.09

障がいがあっても自立して生活でき、
地域の中の誰もが笑顔で過ごせるまちになる

宝塚NPOセンターは
メールマガジンを月1回配信しています

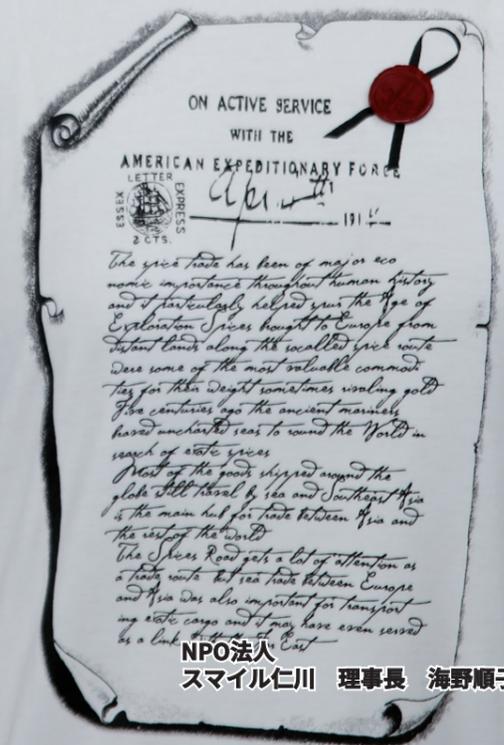
zukanpo@hnpo.net

上記アドレスに「配信希望」とご連絡ください

皆さまの寄付で支えられています

http://hnpo.net/support/

認定NPO法人は寄付をすると税金が戻ってきます



NPO法人
スマイル仁川 理事長 海野順子

宝塚NPOセンターの事業紹介

宝塚NPOセンターで取り組む事業は多岐に渡ります。それぞれの事業に、宝塚NPOセンターならではのきっかけや取り組みがあります。ここで改めてご紹介します！

▶ 宝塚地域若者サポートステーション事業

1999年に宝塚NPOセンターを設立し、NPOの設立相談や起業相談、地域づくり等、「中間支援NPO」として活動する中で、2002年「生きがいしごとサポートセンター事業」を受託。生きがいのある働き方を望む方々に対する起業・就労のサポートが本格的に始動。就労相談者の中には若年層もあったことから、2008年には宝塚市と協働し、就労に悩みを抱える若者に対し、「若者就労支援事業」を生み出しました。しかしこの事業も連続講座を年に1回実施のため、もっと包括的に、継続して若者に対する就労支援ができないかと考え、この「地域若者サポートステーション事業」にたどり着きました。

2013年に本事業を受託し7年目。就労を目指す15～39歳までの若者とそのご家族へのさまざまなサポートをしています。昨年度の新規登録者数は123名、相談件数はのべ2,385件、就職数75名^{※1}、就職等数105名^{※2}でした。就職等決定率(就職等数/新規登録者数)としては85.37%と全国1位でした。相談に来られる若者やそのご家族に対して、新たな進路を見つけられるよう、日々取り組んでいます。

若者サポートステーション(サポステ)は全国に177ヶ所あります。中間支援のNPOが取り組んでいるサポステは多くありませんが、私たちはその特徴を生かした支援をしています。一例として、自治会や地域の方々とのつながりが多いことから、毎年行われる地域の夏まつりでは夜店を出店させてもらい若者たちで運営、職業体験の場となっています。そのほかにもイベントの手伝いや1日だけのアルバイト、理解ある企業での職場体験、農園等、若者たちにとってかけがえのない経験の場をたくさんいただいています。

今後も人と人とのつながりを大切に、就労に悩みを抱える若者への理解者(応援者)を増やし、地域全体でサポート体制を作っていきたいと思っています。

※1 就職数:週20時間以上の雇用保険被保険者資格を取得し得る就職

※2 就職等数:雇用保険被保険者就職に加え、公的職業訓練の受講及び雇用保険被保険者へ向けたキャリアアップが客観的に期待される就職に至った者



● 協働の場づくり

＜宝塚市市民活動促進支援事業＞

「ここで知り合う!タカラヅカつながり会議」を開催

7月31日、「ここで知り合う!タカラヅカつながり会議」を開催。宝塚に拠点を置くNPO法人・ボランティア団体の他にも、宝塚での活動や政策に関心を持つ個人など広く市民活動に関わる計28名が参加されました。プログラムは2部構成で、条例素案の説明、交流会を行いました。

前半は「(仮称)宝塚市協働のまちづくり推進条例 素案」の説明と質疑応答。市職員と協働のまちづくり促進委員会^{※1}委員の方々のご説明されました。条例素案では、まちづくり協議会が法的に位置づけられ、自治会・まちづくり協議会・市民活動団体等への支援が規定されています。今後、市民と市との協働のまちづくりを更に進めていくための大切な条例です。説明終了後の意見交換では、参加者から地域の各種団体が連携していく上でまちづくり協議会が果たす役割に期待するご意見が出されていました。

後半は、参加者同士がテーマに沿って話し合う時間を持ちました。テーマは「みんなの困りごとを知恵とアイデアを出し合い解決方法を考えよう」。困りごとには、資金不足や高齢化、活動内容が理解してもらいにくい、PRができていない、若い方との関わりが少ないなど多岐に渡りました。ここで初めて知り合う方も多く、お互いに深く話を聞き合い、活発に意見やアイデアを出し合える、話の尽きない活気のある会議になりました。こうした交流が困りごとの解決につながり、「こんなことができないだろうか」と温めていた考えが協働で実現するきっかけになると考えています。今後も引き続き、色々な「つながり」を作っていけるよう、交流できる機会を作っていきます。

※1 協働のまちづくりの促進についての重要な事項の調査、審議に関する事務を行う宝塚市の審議会



初対面とは思えない活発な意見交換



ご意見・アイデアが協働や困りごと解決のきっかけに

コラム

「笑う門には福来る！」

私には発達障がいの息子がいます。笑いは生きていくために大切な、健康と人との繋がりをもたらしてくれます。しかし、親子で笑っているだけでは息子の自立はちょっと難しいかも…。

まず、自立に必要な不可欠なことは、地域の方々へ受け入れてもらうことだと思います。そのためには、地域の方々へ「嫌なことがあるとどんな行動をとってしまうのか」などを知ってもらい、同時に子どもには受け入れてもらうために必要なこと、「ありがとうございます」「ごめんなさい」などのあいさつや、人に迷惑をかけないということを教えていく必要があると思います。

肢体不自由や知的障がい、発達障がいとそれぞれが必要とする支援は一見異なるかもしれませんが、しかしお互いが助け合い、地域の方々へサポートして頂ける環境づくりができれば、障がい児の自立に希望の光が見えてくると思います。さらに将来、障がい「児」が障がい「者」になった時、次の世代の障がい「児」の手助けができるような場所づくりやサポート体制ができれば、もっと笑顔があふれるまちになると考えています。今後の「スマイル仁川」をどうぞ見守ってください。

NPO法人スマイル仁川 理事長 海野順子(うんのじゅんこ)

取材に行ってきました！！

「笑顔あふれる地域で自立できるために」

NPO法人スマイル仁川の理事長 海野順子さんにお話をうかがいました。今年の4月に認証を受けたばかりの法人です。障がい児と保護者が孤独にならないための場づくりと、障がいのある子どもたちが大人になった時に、住み慣れた地域で自立して生活していけるようになって欲しい。そんな思いから、法人として学習支援や運動支援の活動を始められています。

海野さんは、障がいのある息子さんをお持ちで、障がいのことをオープンにしています。周りの方々には息子さんに障がいがあっても気をつかうことなく、人に迷惑をかけた時はきちんと叱ってほしいと伝えているそうです。息子さんに対して周囲がとって欲しい対応を皆さんに率直に伝える。これにより、周囲の障がいに対する理解が高まり、障がいを特別視せず、まちの中で受け入れてもらうことにつながっているそうです。こうした海野さんの姿勢に触れた周りの人たちが思いに突き動かされ一緒に動き出し、法人設立の大きな力になってくださったそうです。そして、その理解者の広がり、活動の中にも表れています。

「自立して生きていくために必要なことを学ぶ」

学習支援は、自立して生きていくために最低限必要な知識やルールを学ぶ、それぞれのスピードに合わせた学びの場です。学習支援を行なう場所は仁川デイサービスセンター。老人福祉施設ですが、バリアフリーの整った施設は障がい者にとっても安心・安全に過ごせる施設です。海野さんは飛び込みで率直に所長の宮田さんに思いを伝え、場所を貸してもらえないかお願いをされたそう。宮田さんの心がその言葉と行動に動かされた結果、一室をお借りすることになり、今の活動につながっています。

一方、仁川小学校の体育館では「リズム体操」を月2～3回(不定期)、行なっています。現在は放課後等デイサービスのさくらんぼ仁川さんと協働で開催。障がいのある子どもにとって手足の曲げ伸ばしが苦痛なこともあります。リズムに合わせて行くと楽しい遊びになります。子どもたちも笑顔で取り組み、体幹も鍛えられる。体力が確実につき、ごちなかった動きがしっかりとし、走り回れるようになったと海野さんは言います。また、体操や遊びを通して、子どもたちは楽しみながら社会性を身につけていくそうです。取材時、体育館の中を飛び回る子どもたちは元気いっぱい、この活動は子どもたちが大人になった時に、大切な財産になると感じました。

今後、子どもたちのためにポッチャの用具を揃えたいと海野さんは言います。ポッチャはパラリンピック正式種目のボール競技。麻痺でボールを投げることのできない方も参加できます。これができるようになれば、さらに参加できる方が増え、笑顔になれる機会を作ることができる。より多くの障がい者と周囲の地域の方々が、共に笑顔で過ごせるまちにつながっていくと感じます。障がいのある子どもたちが将来大人になった時に、本人も周りの人も笑顔で過ごせる。スマイル仁川を中心にして、これまで以上に誰もが安心して暮らせる地域社会の広がりにつながっていくと感じました。



将来の自立に向けた学習支援



体操や遊びが自立につながる

NPO法人スマイル仁川 連絡先 E-Mail: smile@ina.ne.jp
Web: https://smile-nigawa.jimdofree.com/